

令和4年度水稲病害虫発生情報 第1号（6月下旬）

令和4年6月27日
青森県病害虫防除所

斑点米カメムシ類が平年並～平年よりやや多い状況です。
畦畔や本田の雑草防除を徹底しましょう。

1 斑点米カメムシ類
(1) アカヒゲホソミドリカスミカメ（発生量：平年並）
ア 発生概況

- ① 定点調査ほ場（青森、木造、鶴田、十和田、七戸、八戸）の畦畔に設置した性フェロモントラップによる越冬世代成虫の誘殺は、5月下旬の設置直後から認められ、誘殺数は平年並に推移している（図1）。
- ② 県内3か所（青森、木造、八戸）に設置した予察灯では、越冬世代成虫が6月3半旬から誘殺されている。誘殺時期は平年よりやや遅く、誘殺数は平年並に推移している（表1）。
- ③ 向こう1か月の気温は平年より高いと予想されていることから、第1世代成虫の発生盛期は平年よりやや早い7月中旬頃で、発生量は平年よりやや多くなると推察される。

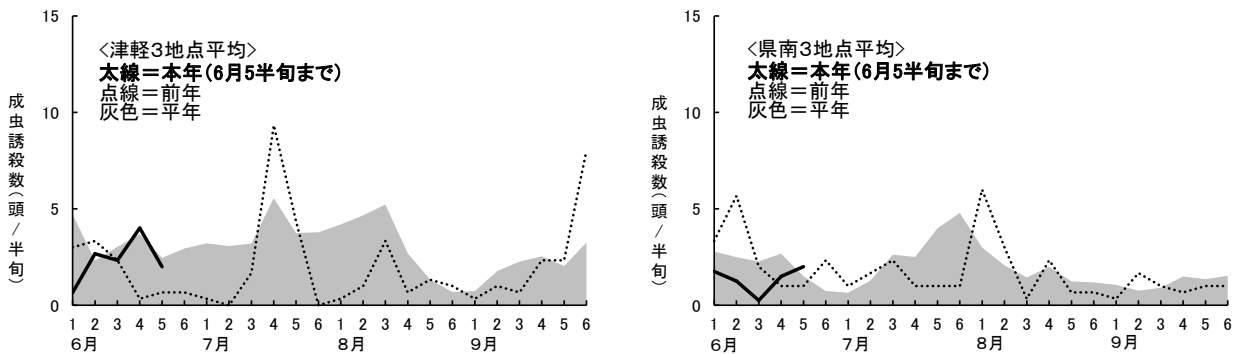


図1 畦畔に設置した性フェロモントラップにおけるアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺状況
注 津軽地域の平年値は青森及び木造（過去10か年）、鶴田（過去7か年）の平均値。
県南地域の平年値は十和田及び七戸（過去10か年）、八戸（過去6か年）の平均値。

表1 予察灯におけるアカヒゲホソミドリカスミカメの半旬別誘殺状況

地区名	月	6						7					
	半旬	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
青森	本年	0	0	1	2	0							
	前年	0	2	5	0	1	0	8	22	1	0	7	15
	平年	0.9	0.7	0.9	0.4	0.1	4.3	12.4	20.6	28.3	28.4	24.1	23.0
木造	本年	0	0	2	4	6							
	前年	0	4	6	0	0	0	1	16	37	30	6	17
	平年	1.5	1.1	5.0	4.0	5.0	3.9	18.0	56.2	113.0	66.1	112.3	72.0
八戸	本年	0	0	0	1	0							
	前年	0	1	0	0	0	2	5	80	17	69	31	27
	平年	1.5	0.6	1.6	2.1	2.2	1.1	3.2	17.1	43.7	39.0	46.0	57.2

【参考】 6月下旬巡回調査におけるアカヒゲホソミドリカスミカメの捕獲虫数（畦畔すくい取り）

地域	年次	調査 地点数	程度別発生地点率(%)				発生地点 率(%)	捕獲虫数
			甚(>70)	多(>40)	中(>20)	少(>0)		
津軽	本年	35	0	2.9	8.6	14.3	25.7	1.3
	前年	33	0	0	0	9.1	9.1	0.2
県南	本年	28	0	0	3.6	28.6	32.1	0.7
	前年	25	0	0	0	20.0	20.0	0.3
県計	本年	63	0	1.6	6.3	20.6	28.6	1.0
	前年	58	0	0	0	13.8	13.8	0.2

(2) アカスジカスミカメ（発生量：津軽地域・・・やや多い、県南地域・・・やや少ない）

ア 発生概況

- ① 定点調査ほ場の畦畔に設置した性フェロモントラップでは、越冬世代成虫が津軽地域、県南地域ともに6月中旬から誘殺されている。誘殺数は、津軽地域で平年よりやや多く推移しており、県南地域では6月15日に十和田で1頭誘殺されたのみであった（図2）。
- ② 予察灯では、越冬世代成虫が青森及び木造で6月4半旬から誘殺されている。誘殺時期はほぼ平年並で、誘殺数は平年並に推移している。八戸では6月24日現在まで誘殺されていない（表2）。
- ③ 向こう1か月の気温は平年より高いと予想されていることから、第1世代成虫の発生盛期は平年よりやや早い7月下旬頃で、発生量は津軽地域で平年より多く、県南地域で平年並になると推察される。

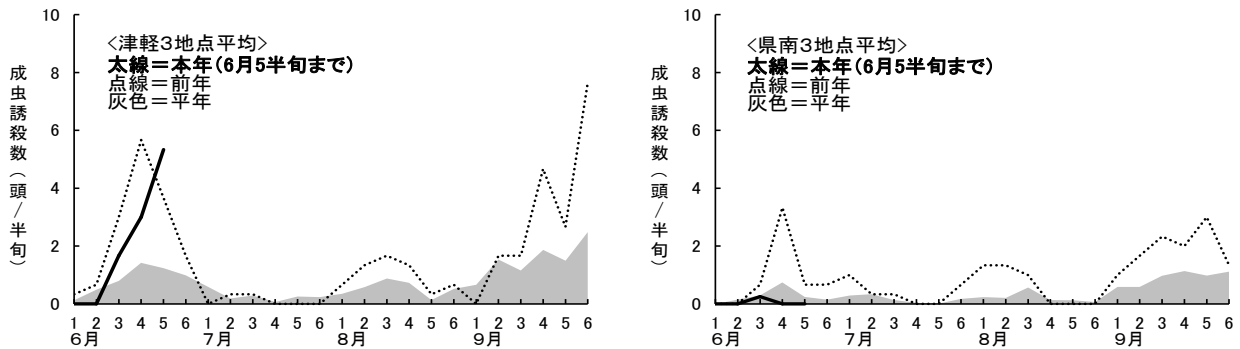


図2 畦畔に設置した性フェロモントラップにおけるアカスジカスミカメの誘殺状況

注）津軽地域の平年値は青森（過去9か年）、木造（過去8か年）、鶴田（過去7か年）の平均値。

県南地域の平年値は十和田及び七戸（過去9か年）、八戸（過去6か年）の平均値。

表2 予察灯におけるアカスジカスミカメの半月別誘殺状況

地区名	月 半旬	6						7					
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
青森	本年	0	0	0	1	0							
	前年	0	1	17	4	5	0	2	3	0	0	6	10
	平年	0.4	0.9	3.0	1.7	1.9	5.2	6.2	4.0	5.4	6.2	10.9	13.2
木造	本年	0	0	0	1	2							
	前年	0	0	1	1	0	4	1	4	4	4	2	1
	平年	0.2	0.1	1.0	0.7	0.4	2.4	3.8	5.1	6.0	5.1	12.6	8.9
八戸	本年	0	0	0	0	0							
	前年	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	5	5
	平年	0	0	0	0	0.2	0.1	1.5	1.6	1.5	0.6	1.9	3.8

【参考】 6月下旬巡回調査におけるアカスジカスミカメの捕獲虫数（畦畔すくい取り）

地域	年次	調査 地点数	程度別発生地点率(%)				発生地点 率(%)	捕獲虫数
			甚(>70)	多(>40)	中(>20)	少(>0)		
津軽	本年	35	0	5.7	14.3	25.7	45.7	2.2
	前年	33	0	12.1	9.1	15.2	36.4	2.9
県南	本年	28	0	0	14.3	14.3	28.6	1.1
	前年	25	8.0	0	16.0	40.0	64.0	5.8
県計	本年	63	0	3.2	14.3	20.6	38.1	1.7
	前年	58	3.4	6.9	12.1	25.9	48.3	4.2

(3) 今後の防除対応

- ① 7月上旬中旬はカメムシが増加し始める時期であることから、この時期に除草を行う。特に水田周辺の休耕田や畦畔等では、雑草が開花・結実しないように刈取りや耕起を行い、遅くとも水稻の出穂1週間前までに終わるようにする。
- ② ノビエ、ホタルイ、シズイは斑点米カメムシの誘引源であり、これらが多発している水田では斑点米率が高くなることから、除草と防除を徹底する。

2 イネミズゾウムシ（発生量：少ない）

（1）発生概況

発生地点率及び食害度は、県全体で平年より低かった。ほとんどの地域では少発生であったが、三八の一部地域では、中発生ほ場が見られた。

（2）今後の防除対応

食害が多い水田では、次年度以降育苗箱施用剤による防除を実施する。

表3 6月下旬巡回調査におけるイネミズゾウムシ被害（食害度）

地域	年次	調査 地点数	程度別発生地点率(%)				発生地点 率(%)	食害度
			甚(>70)	多(>40)	中(>20)	少(>0)		
津軽	本年	35	0	0	0	54.3	54.3	3.7
	前年	35	0	0	14.3	57.1	71.4	7.8
	平年	35	0	0	10.1	53.6	63.7	6.1
県南	本年	28	0	0	3.6	39.3	42.9	3.9
	前年	28	0	0	14.3	46.4	60.7	7.0
	平年	31	0	0.3	14.5	44.2	59.0	6.9
県計	本年	63	0	0	1.6	47.6	49.2	3.8
	前年	63	0	0	14.3	52.4	66.7	7.5
	平年	66	0	0	11.2	50.2	61.5	6.1

3 イネドロオイムシ（発生量：津軽地域・・・やや多い、県南地域・・・平年並）

（1）発生概況

発生地点率及び食害度は、津軽地域では平年よりやや高く、県南地域では平年並であった。

（2）今後の防除対応

食害が目立ち、幼虫が見られる水田では速やかに薬剤散布を実施する。

表4 6月下旬巡回調査におけるイネドロオイムシ被害（食害度）

地域	年次	調査 地点数	程度別発生地点率(%)				発生地点 率(%)	食害度
			甚(>70)	多(>50)	中(>20)	少(>0)		
津軽	本年	35	0	0	0	48.6	48.6	4.6
	前年	35	0	0	31.4	42.9	74.3	10.9
	平年	35	0	0	4.6	24.8	29.4	2.3
県南	本年	28	0	0	0	7.1	7.1	0.5
	前年	28	0	0	3.6	25.0	28.6	2.7
	平年	31	0	0	0.7	9.9	10.6	0.7
県計	本年	63	0	0	0	30.2	30.2	2.8
	前年	63	0	0	19.0	34.9	54.0	7.3
	平年	66	0	0	3.3	18.8	22.1	2.3

4 フタオビコヤガ（発生量：少ない）

（1）発生概況

発生地点率及び食害度は、県全体で平年より低かった。

（2）今後の防除対応

7月上旬に食害が目立つ水田では薬剤散布を実施する。

表5 6月下旬巡回調査におけるフタオビコヤガ被害（食害度）

地域	年次	調査 地点数	程度別発生地点率(%)				発生地点 率(%)	食害度
			甚(>70)	多(>40)	中(>20)	少(>0)		
津軽	本年	35	0	0	0	2.9	2.9	0.0
	前年	35	0	0	0	42.9	42.9	0.9
	平年	35	0	0	0	12.6	12.6	0.4
県南	本年	28	0	0	0	0	0	0
	前年	28	0	0	0	10.7	10.7	0.1
	平年	31	0	0	0	12.2	12.2	0.3
県計	本年	63	0	0	0	1.6	1.6	0.0
	前年	63	0	0	0	28.6	28.6	0.6
	平年	66	0	0	0.2	12.6	12.8	0.4

5 イネヒメハモグリバエ、イネハモグリバエ（発生量：少ない）

（１）発生概況

- ① イネヒメハモグリバエの発生地点率及び食害度は、県全体で平年より低かった。
- ② イネハモグリバエの被害は認められなかった。

（２）今後の防除対応

発生時期が長期にわたる場合は、７～１０日ごとに２～３回薬剤散布を実施する。

表６ ６月下旬巡回調査におけるイネヒメハモグリバエ被害（食害度）

地域	年次	調査 地点数	程度別発生地点率（％）				発生地点 率（％）	食害度
			甚(>70)	多(>40)	中(>20)	少(>0)		
津軽	本年	35	0	0	0	22.9	22.9	0.4
	前年	35	0	0	0	37.1	37.1	1.0
	平年	35	0	0	2.1	49.9	51.9	2.6
県南	本年	28	0	0	0	17.9	17.9	0.2
	前年	28	0	0	0	25.0	25.0	0.8
	平年	31	0	0	0.3	29.0	29.3	1.2
県計	本年	63	0	0	0	22.2	22.2	0.3
	前年	63	0	0	0	31.7	31.7	0.9
	平年	66	0	0	1.2	39.8	41.0	1.9

6 いもち病（葉いもち初発未確認）

（１）発生概況

６月２４日現在、本田における葉いもちの発生は認められていない。

（２）今後の防除対応

- ① 取置苗は葉いもちの発生源となるので、水田内や周辺に放置しない。
- ② 常発地や葉いもちに罹りやすい品種を作付している水田で、箱施用剤や側条施用剤を使用していない場合は水面施用剤を散布する。
- ③ 葉いもちの初発生は、例年７月上中旬頃に確認されている。水田をよく見回り、発生を認めたら直ちに茎葉散布を実施する。病気の進展が止まらない場合は、系統の異なる薬剤を散布する。

県民の皆さまへのお願い
新型コロナウイルス感染拡大防止



<https://www.pref.aomori.lg.jp/koho/covid19kakudaiboushi.html>

【この情報に関する問合せ先】

〒030-0113 青森市第二問屋町 4-11-6 青森県病害虫防除所
TEL:017-729-1717 FAX:017-729-1900 担当：技師 濱端 駿